

2021年9月19日

全人類が一斉に主を褒め称える

阿南 悦子

昨年4月、風の教会でイースター・コンサートをするため、賛美隊は自主練習をしていました。でも、日本も2月からコロナが蔓延し、兵庫県も緊急事態宣言となり、なんと急遽、無観客でのコンサートとなりました。賛美が終わるなり、お腹の底から「勝利した！地球が浄化した、血潮の賛美でよみがえった」という思いが溢れ出てきました。

そして、風の教会から家に帰る途中、いのちの家に向かう道々、木々も、草も、花もキラキラと輝いているのです。優しい風が心地よくて、「主よ、感謝します」と、繰り返しながら家に帰り着きました。霊の目は主の御業を見て感動しています。現実には、コロナが蔓延し、2020年は東京オリンピックも2021年に延期され、群れの神戸リリートは2022年3月に延期となりました。

群れも世の代表ですから、いろいろな事が起きました。美津子さんはエルシャの階段から落ちて、入院されました。しかも、ピーター先生は体の異変が続き、脳梗塞で命の危険があり、群れは震撼しました。美津子さんをはじめ、奥様の久子さん、群れの皆が心合わせて祈りました。

また、別の御使が出てきて、金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼった。
(黙示録 8:3-4)

この祈りの香が世界中から繋がり、金の香炉に満ちている祈りと一つになった瞬間、主は、血潮の一滴をピーター先生の頭に注いで下さったのです。血潮でピーター先生は生き返り復活されたのです！群れも同時に復活し、新たなからだとされました。ただ、主の前に一人静かに出て、主のみ顔を仰ぎ見る。主の眼差しと、私が主を想う思いだけの世界。主の愛だけが満ちて、ありのままの私だけの存在。この世界は、愛、愛、愛……十字架の贖いの愛の世界です。永遠のいのちだけの世界です。

目の前に嵐が吹き荒れようとも、主を見上げる。すると、神の愛に覆われ、自分の問題もいつしか薄らいでいる。この平安に満たされる。それは、十字架の愛だけがあればいいとの信仰が群れに浸透しているからです。群れは、次のみ言葉を握りしめて賛美と祈りを捧げたのです。

たとい千人はあなたのかたわらに倒れ、万人はあなたの右に倒れても、その災はあなたに近づくことはない。あなたはただ、その目をもって見、悪しき者の報いを見るだけである。あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災はあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない。これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道であなたを守らせられるからである。

(詩篇 91:7-11)

今、群れは、宇宙礼拝をしています。これは、全被造物が初めの愛に帰り、主を礼拝するためです。つまり、宇宙規模のキリストの大家族となるためです。天の賛美に、「諸霊をも招き入れよ」と、主が示された時、「え～、主に反逆し、羊を食い荒らしてきた諸霊を？」と、私は内心ビックリ仰天。主の大きな愛はやはり宇宙規模の愛！この天の賛美は血潮そのもの。主ご自身。美しい響きに一人でも早く救われてほしいです。この天の賛美の洪水に誰一人もれる者はないと言って下さるのです。主に救われ、十字架の愛に帰るまでは、人はこの世で比較の世界で生きています。誰よりも一番になりたい、あの人より私が上、あの人より私は劣っていると嘆く、プライドの世界です。でも、主の目は平等なのです。主は、皆が平和で喜んで主を褒め称えることを切に望んでおられます。

しかし今は、世界中がコロナだけでなく、黒雲が覆っている世界情勢です。地球が悲鳴を上げています。いつ第三次世界大戦が起こるかかわからない状況です。今年も8月15日の終戦記念日に、戦争の爪痕がテレビで映し出されていましたが、本当に戦争は悲劇そのものですね。二度と戦争があってはなりません。だから、主が天の賛美で世界平和を願っておられるのです。

また異常気象で、大水害、地震、いろんな災害が起こっています。そして中国の欲望は暴走し、世界を飲み込もうとしています。

核弾頭を多く保有している国が強いとされていますが、血で血を洗う争いは、多くの犠牲者とあらゆる悲惨な爪痕が残るだけです。

でも、神の武器は天の賛美です。この賛美は血を流しません。天の賛美は、この群れに託されています。私たちが賛美の手を下ろすなら、地球は復活できないのです。天の賛美が地球を救う、この群れはその任務を果たすのです。

今、アレリヤの賛美が与えられています。ピーター先生が6月6日の礼拝で、「シンクレアのアレリヤ」の大合唱の歓喜の賛美を流して下さいました。その響きはまるで天国にいるようでした。その響きの壮大さに、天使たちも駆けつけ、天に帰った人たちも共に賛美していたように感じました。大勢で主を褒めている。天国は「アーメン」と「アレリヤ」を世界中の国民が賛美しているようにも思いました。

「アレリヤ」は言葉が通じない者同士でもすぐ、歌えます。全人類が一斉に主を褒め称えるとイメージしたら、宇宙規模の大合唱は、永遠の果て果てまでも届くに違いないと思いました。
(2021/9/1 本部スタッフ)

本部スタッフの阿南悦子さんが2021年9月12日、天に召されました。神様を愛し、さんびを愛し続けた阿南さんの愛と信仰は永遠です。これからはますます天で愛する主をさんびし、私たちと共に主を礼拝し続けることと思います。天と地にキリスト・イエス様をたたえるさんびが満ちますように。
(編集者)